

2026年度

高崎経済大学 地域政策学部

私費外国人留学生選抜 試験問題

小論文（10：00～11：00）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は1ページ、解答用紙は2枚あります。
- 3 受験番号を所定の欄に記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入してください。
- 5 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 6 解答には筆記用具、消しゴム以外のものは使用してはいけません。
- 7 解答用紙の※印欄には、何も記入してはいけません。
- 8 問題冊子は、持ち帰ってください。

設問 次の文章を読んで、以下の問題に答えなさい。

人口減と東京圏への一極集中により、地方が消滅しかねないという主張を聞くが、本当だろうか。確かに、中山間地域から若い人がいなくなっている。だが、彼らの行き先は九州なら福岡市、東北なら仙台市といった地方中核都市が多い。地方出身の若者全体でみると、東京圏に移り住んで定着しているのは1割程度に過ぎない。地方が壊滅^{注1}するほど、東京が若者を奪っているわけではないのだ。

地方に住む人たちの所得をどうやって引き上げ、より暮らしやすい環境を作るかが大事になる。地方自治体は、産業を育てようとしても、いつになるのかわからないので、手っ取り早い移住促進策をやって、若い人を呼び込もうという発想になりがちだ。地域がなくなってしまうという危機感があるのだろうが、人が減っていくことにあまりとらわれ過ぎないほうがよい。

賃金が安くても生活費がかからないから、と移住してくる人は限られる。移住者のみならず、もともと地元で暮らす人も含めて若者全体の生活を総合的に支援するような取り組みを目指すべきだ。都市に住む若者の間では、自然豊かな地方の良さが注目されている。過疎地でも高速・大容量の通信網が整備され、環境は極めて良くなった。ITビジネスを起業するほか、東京の会社と連携してサテライトオフィスで働くこともできる。外国人が全国津々浦々^{注2}を訪れ、観光産業も追い風が吹いている。例えば福岡市は、九州全体から若い人が集まり、成長の余地が大きい都市になっている。アジアの大陸を視野に入れた産業展開や、外国人誘致に早い時期から取り組み、新しいビジネスをスタートしやすい雰囲気がある。

若い人の力をどうしたら、うまく生かすことができるか。人口減に焦らず、地道に地域産業を育てていくことが、地方創生の近道になる。

(『読売新聞』朝刊 2017年10月25日「地方消滅」は東京のせい?」より抜粋、一部改変)

注1 壊滅(かいめつ): 壊れて、なくなってしまうこと。

注2 津々浦々(つつうらうら): 色々なところ。

問題 若者の力を生かし、地方を活性化させるためにはどうしたらよいか。本文の内容を踏まえて、日本またはあなたの出身国・地域における若者の力を生かした地方創生の方策について、800字以上1,000字以内で論じなさい。